



## 重点施策

## 浄水場の再構築

水需要に合わせた水道施設の再構築は、老朽化した施設を更新するタイミングに合わせ、非常時のリスク等を考慮したうえで、長い期間をかけて段階的に行っていく必要があります。

本計画期間の10年間においては、稼働開始から約60年を迎える国見浄水場の更新時期に合わせた①国見浄水場・中原浄水場の統合推進と、②茂庭浄水場の長寿命化、③小規模浄水場の段階的な統廃合を行っていきます。

### ① 国見浄水場・中原浄水場の統合推進

#### 国見浄水場の現状と課題

- 昭和36年の稼働開始から、58年経過（令和元年度末現在）  
→老朽化が進行し、耐震性にも課題があります。
- 仙台市内で2番目に大きい浄水場  
→市中心部への給水を担う重要な浄水場であり、現浄水場を稼働しながら更新等を行う必要があります。
- 大倉ダムから取水  
→標高が高く、市内の広いエリアに効率的に配水を行うことができます。



国見浄水場

国見浄水場の整備方法について複数案の比較検討を行った結果、既存施設の延命化ではなく**更新が合理的**と判断しました。

#### 国見浄水場の更新方法

- 現在の国見浄水場を稼働しながらの更新が必要となるため、現位置での更新は難しく、**別の場所への移転が必要**です。
- 中原浄水場は全面改修から42年経過（令和元年度末現在）しており、耐震性に課題があります。



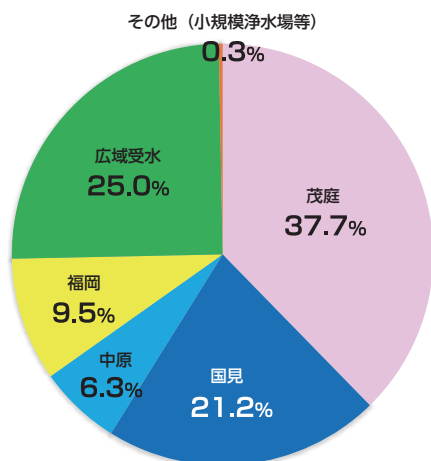
中原浄水場

大倉ダムを水源とする国見浄水場と中原浄水場を統合して**更新することが最適**と判断しました。

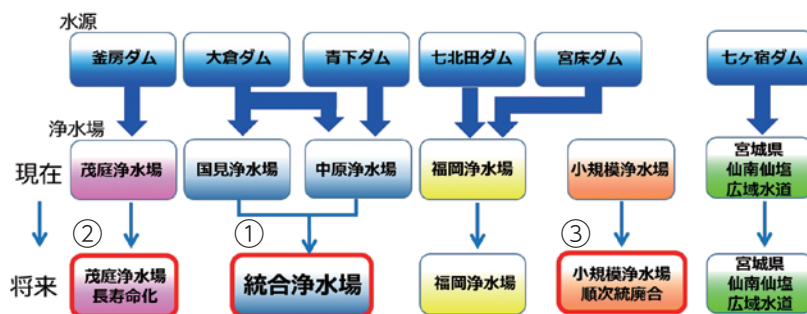
#### 国見浄水場・中原浄水場統合のメリット

- 中原浄水場単独での更新・改修費用が不要となる等、長期的なトータルコストの削減効果が見込まれます。
- 中原浄水場更新の前倒しにより、次の茂庭浄水場の更新時期まで間隔が空き、**事業費を平準化**することができます。
- 浄水場数の減少に伴う人員配置や組織の見直しにより、管路更新のペースアップ等、今後重点的に取り組むべき業務を更に推進するための組織体制を構築することができます。
- 既存施設の改修で導水路の二重化が可能であり、**非常時のバックアップ機能を強化**できます。

## 総配水量の内訳（H30年度）



## 浄水場の再構築



※水源、浄水場の位置関係はP6を参照

## ② 茂庭浄水場の長寿命化

- 仙台市最大の施設能力を有する主力浄水場
  - 昭和45年の稼働開始から49年経過（令和元年度末現在）
  - これまでに耐震補強等を計画的に進めており、継続使用が合理的
  - 更新費用が一時期に集中しないよう、国見・中原浄水場統合と茂庭浄水場の施設更新は数十年の間隔を空ける必要あり
- これらを踏まえ、土木施設を中心に**施設の長寿命化改修**を実施します。



茂庭浄水場

## ③ 小規模浄水場の段階的な統廃合

過去の合併により、旧宮城町や旧秋保町から引き継いだ4つの小規模浄水場についても、今後の人口減少や老朽化を見据え、関連施設の改良や補強等を進めながら**設備更新のタイミング等に合わせた段階的な統廃合**を行っていきます。

### ■ 仙台市の小規模浄水場一覧

名称	竣工	施設能力
作並浄水場	昭和59年	2,000m <sup>3</sup> /日
熊ヶ根浄水場	昭和63年	1,100m <sup>3</sup> /日
野尻浄水場	平成2年	190m <sup>3</sup> /日
滝原浄水場	昭和57年	160m <sup>3</sup> /日



熊ヶ根浄水場



滝原浄水場